CCI SABAE NEWS LETTER

随筆

経営の散歩道 一五二回

富山短期大学名誉教授 川中清司

明るい環境未来を描く
21世紀を考える（2）

かぐや姫の話を聞いていた孫が、つぶらな瞳でこう言った。

「お姫さまは、ちゅき(月)ロケットにのらなかったの」

お月さまには兎がいてお餅をついている。そんなお伽話はもう話せない。

利を追い続け 心は砂漠化

今の時代、ものの豊かさとはうらはらに心の潤いが無くなっている。砂漠が緑地を侵蝕しているように世の中がだんだんと荒んできた。

虫の声に耳を傾けながら、三宝にお団子を供えて中秋の名月をしみじみと味わう、そういった風雅さも日本人の心から消えかけている。

利益を求め得るのは生きる手段の筈だった。それがいつの間にか目的にすり替わっていった。経済を最優先し、企業競争と権謀術策に明け暮れて生活をすり減らす。そして人間は一番大事なものを失いかけている。

資源の枯渇と地球破壊

たしか石油はあと四十年、金、銀、銅などの鉱物資源も数十年しかないと、ローマクラブが警告を発したのが一九七二年。あれからもう三十年近くたったのに、ほとんど我々は的確な対策を打てなかった。

そして環境汚染が進み、オゾンホールが大きくなり、酸性雨で森林が枯れ、温暖化が進む。水位が上昇し、多くの都市が水没する恐れすらあるという。このままでは人間は地球を壊してしまう。

人口増加と穀物の破綻

世界五十六億人のうち五億人が飢に苦しんでいる。一方では近年とみに肉食の偏重が進み、牛、豚の穀物飼料が極端に増加した。牛肉一kgに必要なトウモロコシは三十kgといわれ、このまま肉食が進めばそれに必要な穀物の供給はできなくなり、人間の食料も決定的に不足する。

発展途上国の人口がどんどん増えて、先進国並みのエネルギー消費が進む。環境汚染物質の発生を増幅し、環境破壊が進み緑地を喪失させ、穀物生産量は大幅に減少する。世界の人口は二〇五〇年には八十九億人となるといわれ、それを賄うのに必要な食料は無い。人類に破局が迫る。

遺伝子組み替えと家族計画

地球環境を守る世界規模でのアクションを起こさねばならない。遺伝子組み替え技術を高め収穫量の多い農作物を開発する。

そして、途上国に対する援助とともに家族設計の重要さを教育する。支給されたコンドームすら売ってしまうという貧困な人々に、間隔なく子供を生むことが母体をいため、子育ても教育もできないという問題点を自覚させ、女性のリプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を確立することだ。

明るい未来希望と国際協力

暗い未来を想像し危機感を煽るだけでは解決しない。いま必要なのは世の中を悲観的にとらえることではなく、むしろ明るい未来を考え、世界の人びとが手を結ぶことではないか。

ユニセフ（国連児童救済基金）は、こんな明るい未来像を描く。二十一世紀は国際協調の時代となる。人類は知恵を結集して人口は八十億人をピークに徐々に減少の道を辿る。世界の人々が地球環境の劣化防止に目覚め、二十世紀に支出した各国の膨大な軍事費が、環境保護対策と途上国の支援に向けるため世界中の足並みが揃うと。

明暗いずれを辿るか。その鍵はわれわれ一人ひとりの行動の中にある。